



shin

## 中国男子、結婚難？

中国では2020年頃結婚適齢期の男子の人口が女性よりも3000万人以上も多くなるとのニュースが話題になりました。どうもこのままでは結婚できない男性が多くなりそうです。

そのような人口構成をもたらした背景に一人っ子政策があります。一人しか子供が持てないとなると、働き手や頼りがいなどの面から、どうしても男の子を希望しがちです。かつ根強い男尊女卑思想の影響により、女の赤ちゃんの出生が極端に減り、偏った男女比率になってしまったのでしょう。男女比率の極端なアンバランスにより、結婚難の問題だけでなく、中国全体においても、健全な雇用形態が確保できないのではないかという懸念も起きています。さらに個々の家庭に目を向けると、実の子に老後の面倒を見てもらえないのではないかという不安が増大しています。偏った男女比率は社会生活全般に大きな影響を及ぼします。

「男子の結婚難を解決する為に、低収入の男性同士で一人の嫁を共有するか、あるいは男性同士の同姓婚を認めることなども検討しないといけなくなるかも」と、冗談っぽく話した大学教授もいるそうです。

現代社会では常識的かつ温厚な手段を考えますが、古代においては同様な問題を解決する為に、もっと強引で過激な手法を使っていたようです。中国においては儒教の影響で、親孝行の「孝」は最優先に考えられ、子孫を残さない行為は一番の親不孝だとされました。適齢男子が妻を娶らず子孫も作らないのでは、老後を見る人がいなくなり家も絶えますので大問題です。さらに切実かつ必要な要因もありました。

生産性が低い時代、国を治めるのに人口の確保は現代以上に重要な問題でした。多くの男子が適齢で結婚できず、子供が生まれず、新しい労働力が増えないとすれば、生産力の不足による国の経済力、また軍事面でも様々な支障があ

ったことでしょう。なかなか結婚しようとしなない非婚男女の問題は、家庭・家族にとっても、政府・国家にとっても無視できないことだったので、古代では半ば強引に解決策を実施する必要があったことは想像に難くありません。

古代中国で実際に行われた施策をいくつかご紹介しましょう。



### 解決方法1：官庁（役所）が強制的に結婚させる

戦乱による軍事需要で人口不足が発生すると、安定した人口確保のため、男女とも非婚状況は許されず、出産に適切な年齢で強制的に結婚を奨励したのです。例えば、越王勾践は兵を増やす意図で、「女子17歳で嫁がないのは、その両親に罪があり、男子20歳で嫁をもらわないのも、その両親に罪がある」としました。要するに、適齢の男女が結婚しないのは親の監督責任だという訳です。

西漢初期の頃、長い歳月の戦乱により人口が大幅に減少、特に男子の数が著しく減少したため、西暦紀元前205年に漢の恵帝は「15～30歳女子が未婚の場合、納税額は通常の5倍にする」としました。このような施策で女子の結婚を否応なく促したのです。

南北朝時代にはさらに厳しく、女子15歳で嫁がない場合は違法行為とされ、家族までが罪に問われたそうです。同様に、唐代初期も戦乱による人口減少を修復するため、唐の太宗が「男子20歳、女子15歳を過ぎたら、必ず結婚させよ」と命じました。なんと貧乏で結納金が準備できず、嫁取りができない男子には、官庁がその周辺の富豪に援助するよう命じ結婚させたそうです。

## 解決方法 2：官庁が結婚相談所の役目

魏晋の戦乱により人口が大幅減少した時代、晋武帝は「女子が 17 歳でも嫁がない場合は官吏が強制的に結婚相手を紹介し、結婚させるよう」命じました。また、どの時代も辺境の防衛に多くの兵士を派遣する必要がありました。男子は長期間に渡り辺境での任務に就くため、女子と出会う機会も少なく、政府役人が代わりに結婚相談を請け負い、「赤い糸を引く」といいながら、強制的に女子に引き合わせたそうです。未婚の女子が少ないため、より早く結婚したい兵士達は、先を争って官庁の役人に賄賂を贈ることが多かったそうです。欲深い役人が厚い手当をもらいつつ、自分の権益（結婚相手を紹介し結婚させる権利）を最大限に発揮するため、自由恋愛中のカップルにまで手を出す例もあったそうです。

## 解決方法 3：再婚を勧める

唐の太宗時代には、後家や男やもめになった者にも、早めに良い結婚相手を見つけて再婚するよう促しました。そうしなければ、官庁が強制的に紹介して結婚させることもあったそうです。当時は、独り者をいかに減少させるかで役人の昇進にも影響があったので、そのようなことが横行しました。もちろん、現代と違い当時の慣習ですから、兄の死後、弟が兄嫁をもらうとか、夫の死後、女性が叔父と再婚するなどの事例も少なくなかったそうです。

## 解決方法 4：土豪や金持ちの地主に妾の制限

結納金が払えず、なかなか嫁がもらえない貧困層の問題を解決するため、官庁は「一夫多妻」制度を導入しました。また、お妾さんをたくさん持つ土豪には定数制限を行い、一極集中しないよう調整をすることもあったそうです。

例えば、漢代の規定によると、卿（長官）には一妻二妾、特別貢献がある者には最大八妾まで、一般の書生は一妻一妾、庶民には一夫一妻などなど。

☆ ☆ ☆ ☆

古代の戦乱時期、男子が戦死し女子が溢れた時代もあれば、逆に現代中国では男子が溢れてしまっています。人権を尊重する現代では、昔のように強引な施策を講ずるわけにも行きません。根本的に解決するにはやはり真の意味での男女平等を尊重することも重要なのかもしれません。世の中の環境は変わりますが、昔も今も人類が続く限り結婚と出産の重要性は普遍のテーマなのでしょう。